

2023年度 卒業論文

民俗芸能継承問題における  
小学生向け学習教材の開発

指導教員 須田 宇宙 准教授

千葉工業大学 情報ネットワーク学科  
須田研究室

1932102 氏名 永塚 迅一

提出日 2023年1月17日

# 目次

<b>1</b>	<b>緒言</b>	<b>2</b>
<b>2</b>	<b>日本の伝統芸能について</b>	<b>3</b>
2.1	概要 . . . . .	3
2.2	伝統芸能の種類 . . . . .	3
2.3	伝統芸能の問題点 . . . . .	5
<b>3</b>	<b>女沼のささら</b>	<b>6</b>
3.1	概要 . . . . .	6
3.2	ささら保存会と問題点 . . . . .	7
3.3	小学生とささら . . . . .	7
3.4	小学生がささらを習得する際の問題点 . . . . .	7
<b>4</b>	<b>開発した学習教材について</b>	<b>9</b>
4.1	コンセプト . . . . .	9
4.2	概要 . . . . .	9
4.3	使い方 . . . . .	9
<b>5</b>	<b>学習教材の評価</b>	<b>12</b>
5.1	アンケート調査 . . . . .	12
5.2	アンケート結果と考察 . . . . .	12
<b>6</b>	<b>結言</b>	<b>16</b>
	<b>参考文献</b>	<b>16</b>

# 1 緒言

日本では古くから、神の存在を崇め、奉っていた。そのため、祭りや地域の行事、豊作の祈願などの際に、様々な芸を披露して神へ祈りを捧げていた。この芸が芸能の発端であり、何世代にも渡って継承され、現在も披露されている芸能を伝統芸能という。

伝統芸能は、歌舞伎、能楽・狂言、文楽、古典落語などがあり、その多くは、舞や音楽、そして独特な衣装などを駆使して、人々を魅了している。

しかし、生活の多忙化や少子高齢化、若者の首都圏極集中などによって、伝統芸能の活動総人口が減っている。そのため、伝統芸能の役者の高齢化や、後継者不足が加速しており、満足に活動することができない問題がある。

伝統芸能の中に、地域の特色が強く入り、地域ごとに伝承がなされている民俗芸能がある。茨城県の民俗芸能に「女沼のささら」という獅子舞があり、ささら保存会によって保存継承がなされている。また、地元の小学校では、運動会や地域の祭りの際に児童が女沼のささらを踊り観客を楽しませる。図1は、運動会でささらを披露している様子である。



図1 運動会でのささら発表の様子

小学校の運動会で披露するささらは、4年生から6年生の選抜された代表児童を中心に全員参加で踊る。また、運動会以外にも、6年生のささら代表児童は地域の祭りでささらを披露する機会がある。そこでささら保存会が運動会や祭りの前に、代表児童に数回指導を行なっている。しかし、ささら保存会の人数は年々減ってきており、代表児童に対して十分な指導ができないという問題点がある。

そこで本研究では、個人でささらの踊りを学習できる教材を開発し、ささら保存会の教えと併用することで代表児童に十分な踊りの情報を提供することを目的とする。

## 2 日本の伝統芸能について

### 2.1 概要

日本は古くから農業が盛んで、様々な作物を育てていた。しかし、自然災害によって、豊作ではない年もあった。そこで人々は、神に祈りを捧げ、豊作を祈願し、豊作の年には神へ感謝の祈りを込めた。その際に、披露された芸が芸能の発端である。そして、芸能は、時代ごとの祭りや行事ごとなどで披露されていき、大衆娯楽の一つと化して発展した。その芸能を、人々は技を磨き、親子何世代にも渡って継承し続け、現在もなお残る芸能を伝統芸能と呼ぶ。伝統芸能の多くは、西洋文化の影響を受ける前から日本にある文化を指し、明治時代以前に大成したものを感じることが多い。

### 2.2 伝統芸能の種類

伝統芸能には、歌舞伎、能楽、文楽、古典落語などがある。多くは、観客の前で、音楽に合わせて演劇を行い、見るものを独自の世界観で魅了する。伝統芸能の中には、600年以上の歴史をもつものもあり、その時代の背景を題材として披露されている。

#### 2.2.1 歌舞伎

歌舞伎は誕生当時から大衆娯楽の中心であり、華麗な舞を披露する演劇である。その歴史は、江戸時代の初期頃からと言われており、出雲の阿国の女性舞踊団から始まったとされている[1]。元禄時代に江戸と上方<sup>\*1</sup>で大きく発達した。

歌舞伎は、主に「歌」「舞」「技」でなりたっており、三味線の旋律に合わせて物語を俳優が演じる。女性の役を「女形」というが、歌舞伎では、男性が演じており、現在も続いている歌舞伎の特色である。

1965年に重要無形文化財に指定され、2009年には無形文化遺産の代表一覧表に登録された。

#### 2.2.2 能楽

能楽とは、能と狂言からなる演劇である。その歴史は、仏教が伝わった6世紀半ば頃、中国から様々な芸能が伝わり、その中の散楽という芸能が始まるとされている。散楽が日本に浸透し、後に猿楽とし神社やお祭りで披露されるようになった[2]。

猿楽は時代の流れと共に変化し、猿楽の中の楽しさ、面白さを表現をしている演劇部分と、人の悲しさや、憤りを表現した演劇部分に分かれて、前者を狂言、後者を能と呼ぶようになった。

1957年に重要無形文化財に指定され、2008年には無形文化遺産の代表一覧表に登録された。

---

<sup>\*1</sup> 関西

### 2.2.3 文楽

文楽は日本古来の人形劇である。その歴史は、淨瑠璃という三味線音楽が発達した15世紀頃、近松門左衛門と義太夫という人物が、淨瑠璃の音楽と人形を合わせて人形劇を作ったのが発端だと言われている[3]。

文楽は、物語を語る太夫の役、三味線を奏でる役、人形操る役、の3役によって成り立つ。太夫の言動に合わせて三味線役が旋律を合わせ、人形遣いがその情景を表現する。

1995年に人形淨瑠璃文楽が重要無形文化財に指定され、2008年には無形文化遺産の代表一覧表に登録された。

### 2.2.4 古典落語

古典落語は、巧みな話術で人々を笑わせる芸能である。その歴史は、戦国時代、客に笑い話を聞かせていた「おとぎ衆」と呼ばれる人々が発端だと言われている[4]。一般に、江戸時代から昭和までの文化を題材とした落語を古典落語と呼び、それ以降から現代までの落語を新作落語と呼ぶ。

古典落語は、江戸時代の庶民の生活ぶりを題材とした話や怪談話などを寄席と呼ばれる、客に芸を披露する場所で演じていた。座布団の上で座って滑稽な話をする際は、小道具なども巧に用いて、客を独自の世界観に引き込んでいた。

1995年に重要無形文化財に指定されている。

## 2.3 伝統芸能の問題点

日本独自の文化であり、先祖代々受け継がれてきた伝統芸能であるが、現在では高齢化と後継者不足の問題がある。

伝統芸能の主要な歌舞伎では、芸を代々継承している家元だけでは後継者が足りず、日本芸術文化振興会は一般から人を集め育成を行っている。しかし、近年は一般からの志願者数が少なく、歌舞伎俳優は2019年度以降5人以下と低迷している[5]。

地域においても、問題がある。

伝統芸能の中には、地域の特色が強く入り、地域ごとに伝承がなされている民俗芸能がある。岩手県の北上市は100を超える民俗団体があり、民俗芸能が盛んな市である。北上市は2018年に北上市民俗芸能団体連合会加盟団体アンケートを加盟47団体を対象に実施した[7]。その結果、図2では、36団体が後継者不足であった。また、15団体が指導者の高齢化であり、継続するためには、若手の参入が必須である。

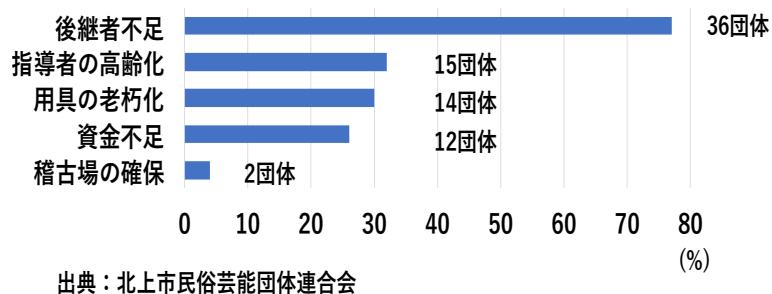


図2 各団体の運営におけるなやみ

上記のように全国各地の伝統芸能や民俗芸能の多くは、後継者が不足しており、現役で活躍している人の高齢化が進んでいる。そのことによって、技を後世に伝えることができず、衰退の一途をたどっている。

### 3 女沼のささら

#### 3.1 概要

女沼のささらは、地元の女沼地区に伝わる民俗芸能の一つである。「前獅子」<sup>\*2</sup>「女獅子」「後獅子」の「3人立ち」からなり、腹には小太鼓を抱き、両手に持ったバチで叩きながら舞う。前、後獅子は紺、女獅子は赤の上着に袴を身に着け、草履をはいている。舞っている様子を図3に示す。獅子の他には、獅子が舞う際に笛を奏でている笛担当が数名いる。



図3 ささら舞の様子 左側が後獅子 中央が女獅子 右側が前獅子

地元は古くから農業を主体とする農村地帯として栄えており、女沼のささらは五穀豊穣、無病息災、天下泰平、農作物の収穫への感謝の祈りが込められている。毎年、11月の第2日曜日に女沼地区にある女沼香取神社の秋季大会で奉納される。女沼のささらの期限を正確に記した文章はないが、利根川水運が最も栄えていた江戸時代に武藏国飯積村(現埼玉県)の平井覚亮によって伝えられたとされている。また、日光東照宮造営の際に、地固めのために招かれ、見事な舞を披露したことから、その功により金の幣束と福草履を受けられたという伝承がある[8]。

昔は、誰もがささらを踊れたのではなく、地区の長男に限られていた。そこから昭和に入り、戦争や核家族化によって一時衰退したが、再興されて現在は地区に残る男子によって保存継承されている。

舞は全部で12舞あり、神に奉納する「出羽」「平庭」、物語を構成する「掛かりもの」、女獅子を争う様子を表現する「のめりこみ」などがある。現在では10舞のみが奉納される。

<sup>\*2</sup> 「前獅子」は「太夫獅子」ともいう

### 3.2 ささら保存会と問題点

ささら保存会は女沼のささらを保存、継承している団体である。11月の秋季大会の他に、地元のお祭りでささらを披露する。また、地元の小学生にささらを教えており、後世に技を伝えている。

しかし、保存会の人数は年々減少しており、後継者不足と保存会内の高齢化が問題視されている。図4はささら保存会の人数の推移を示している。現在は、獅子舞を披露する獅子担当10名、笛担当6名の計16名で活動している。3人1組で10舞のささら舞を獅子担当の10人で交代しながら披露するのだが、人手不足のため、1組の踊る回数が以前と比べて増加してしまい、獅子担当の人の負担が大きくなっている。また、1人1人、前獅子、女獅子、後獅子と役が決まっているため、役の1人でも欠けてしまうと、替えてその役を補充することが非常に難しい現状がある。

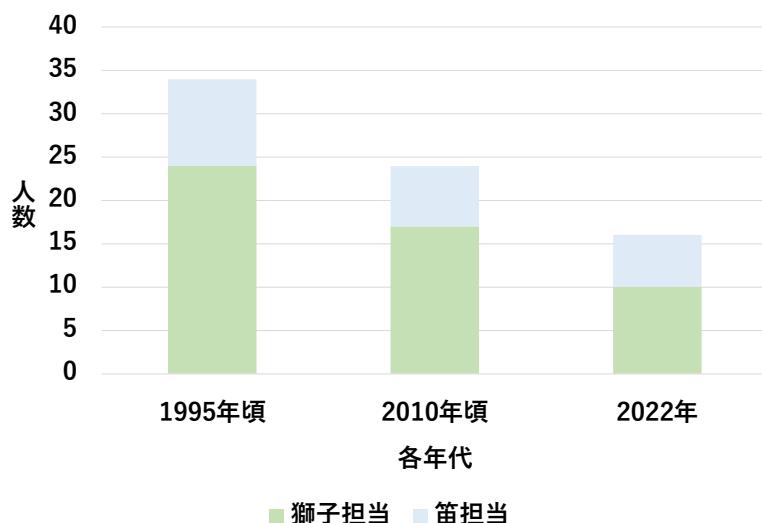


図4 ささら保存会の人数推移

### 3.3 小学生とささら

地元の下辺見小学校では、児童が女沼のささらを披露する機会がある。児童の中には、4年生から6年生で構成される、ささら代表に参加する児童もいる。

小学校の運動会では全校生徒によるささら発表があるのだが、代表児童が中心となってささらを披露する。その際に、代表児童は、10舞ある女沼のささらの内、「出羽」「平庭」の2幕を披露する。また、運動会の他にも地域のお祭りで、小学6年生の代表児童が女沼のささら披露する機会がある。

### 3.4 小学生がささらを習得する際の問題点

ささら代表児童は、小学校の代表としてささらを踊るため、ささらの演技を立派にこなす必要がある。そのため、運動会や祭り前にささら保存会の方々が、代表児童に数回ささらの指導を行う。

しかし、保存会の方々が代表児童にささらを教える際に問題がある。ささら保存会の人数は図4

で示した通り人数が減少しており、舞の指導を行える人が限られてしまっている。以前は約10名で指導を行っていたが、後継者不足と仕事の都合などで、現在では3,4でしか指導を行えない状況である。そのため、代表児童1人1人に目を向けることが難しくなり、全体に指導がいきわたらぬ。また、さら保存会内の高齢化の影響で、小学生の前でさら舞をその場で実演することが難しく、教えられる内容が限られてしまう。

上記の問題を解決するために、本研究ではさら学習教材を開発した。

## 4 開発した学習教材について

### 4.1 コンセプト

ささら学習教材は、個人で女沼のささら舞を学習できる Web 教材である。ささら代表児童 1 人 1 人が本教材で学習することによって、ささら保存会の負担を軽減し、ささらを踊る上で十分な情報を得ることができる仕様となっている。本教材とささら保存会の数回の指導を組み合わせることによって、以前より上手に踊れることを想定している。

### 4.2 概要

工夫した点は、主に良い例と悪い例の動画や写真を用いて解説し、児童に踊りのポイントを意識させて、理解しやすくした点である。

大まかに、太鼓のたたき方などの「基本」、実際に運動会で踊る「出羽」「平庭」の 3 つを選択できる構成とした。この内、基本では、良い例と悪い例の動画と写真を用いて解説し、6 つの動作を学習してもらう。出羽と平庭では、はじめに正面、ななめから撮影した、踊りのポイントごとに番号が出現する踊りの通し動画を視聴してもらい、その出現した番号ごとに良い例と悪い例の、動画と写真を用いて解説を行う。1 視点のみの通し動画であると、動画の中の 3 人の動きが重なってしまい、見づらい箇所があるため、本教材では 2 視点の通し動画を提示し、満遍なく 3 人の動きを視聴できるようにした。出羽は 6 つ、平庭は 4 つのポイントを解説する。

### 4.3 使い方

本教材のトップページでは、上段に画面の説明を、中段に「基本」「出羽」「平庭」の 3 つを選択できるボタンを提示するようにした。学習者は自分の学習したい項目を選択することが可能である。トップページの画面を図 5 に示す。

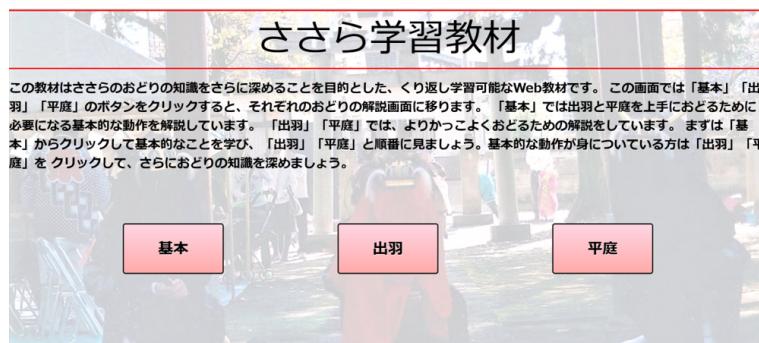


図 5 ささら学習教材トップページ

基本では、ささらを上手に踊るために必要な 6 つの動作を学習してもらう。ここで学習する内容

は出羽や平庭にも通じており、主に初級者向けの内容となっている。基本の画面を図 6 に示す。上段に画面の説明を、中段に 6 つの動作を選択できるボタンを提示するようにした。内容は左から「道中太鼓」「太鼓のたたき方」「弓の引き方」「ぶっちじめ」「構え」「首ふり」となっている。



図 6 基本画面 1

例として、太鼓のたたき方を選択した画面を図 7 に示す。上段に説明文を、中段左に良い例の映像を、中段右に悪い例の映像を、下段に学習者に注目してほしい点を提示している。



図 7 たいこのたたき方の解説画面

出羽では、代表児童が間違えて覚えてしまっている動作を中心に、さら保存会の方が毎年教えているポイントを学習してもらう。出羽の画面を図 8 に示す。上段に画面の説明を、中段左に斜めから撮影した通し動画を、中段右に正面から撮影した通し動画を、下段に踊りのポイント番号を提示している。

ポイント番号については、斜め、正面から撮影した通し動画を視聴すると、図 9 のように、動画内でポイントごとに右上に番号が出現するようになっているため、その対応するポイント番号をクリックすると、ポイントの解説ページに遷移する。

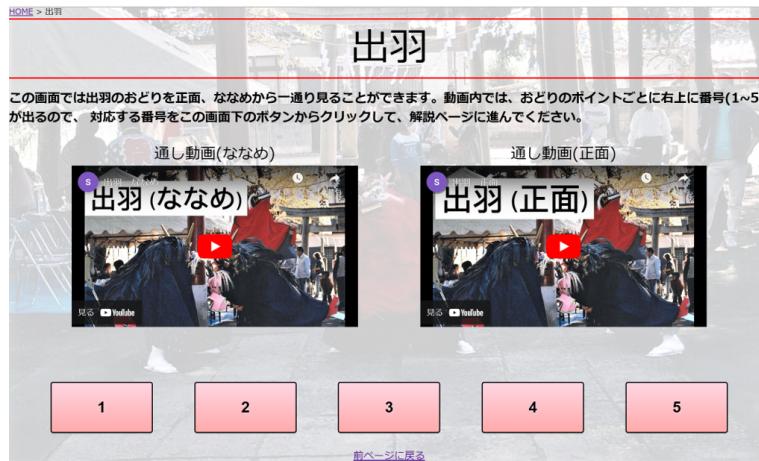


図 8 出羽画面



図 9 出羽 斜めから撮影した通し動画

例として、ポイント番号 1 を選択した画面を図 10 に示す。基本のたいこのたたき方を選択した画面と構成は同じである。

平庭は出羽と操作方法が同じなため、割愛する。



図 10 出羽 ポイント番号 1 の画面

## 5 学習教材の評価

### 5.1 アンケート調査

本教材の有用性を示すために、さら代表児童にアンケート用紙で調査を行った。対象は、小学6年生5名である。本調査は、さら保存会の方々の協力の元、地域の祭り前の練習中に実施した。

アンケートは全部で8項目あり、大きく分けて3つに分けられる。

1つ目は、教材の使いやすさについてである。さら学習教材は個人で学習を進められることを目標としたため、この設問は、代表児童が操作面で問題なく個人で学習を進められることが可能かを調査するためである。2つ目は、工夫した点の評価についてである。この設問は、良い例と悪い例の動画や写真を用いて解説することが学習者にとって、理解しやすく、十分な踊りの知識を提供することが可能かを調査するためである。3つ目は、実用的についてである。この設問は、本教材と保存会の数回の指導を組み合わせる学習することが、踊りの向上につながるかを調査するためである。

回答方法は、「とてもそう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」の4つの選択肢から回答してもらい、1週間の回答期間を設けた。

### 5.2 アンケート結果と考察

#### 5.2.1 教材の使いやすさについての設問

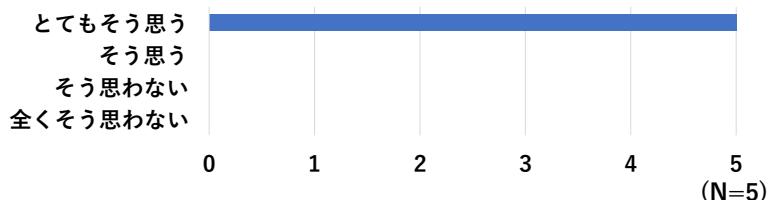


図 11 さら学習教材は使いやすかったですか

図11より、5人全員が「とてもそう思う」を選択した。高評価の理由として考えられる点は、2点ある。1点目は、本教材を利用するさら代表児童の年齢層に合わせて作成し、漢字なども極力使用しなかった点である。2点目は、本教材を閲覧する際に使用するデバイスに気を配り、スマホの縦画面、横画面、パソコン画面に合わせて設計をした点である。IT業界の飛躍により、小学校でもプログラミングが必修化となった現在では、1人1台のパソコンを学校から配布されているのは珍しくない。しかし、学外では利用を禁止されている可能性があることを考慮し、自宅でご両親のスマートフォンなどから問題なく利用できるようにすることで自宅での学習を可能にした。

図12より、5人全員が「とてもそう思う」を選択し、図13では、3人が「とてもそう思う」2人が

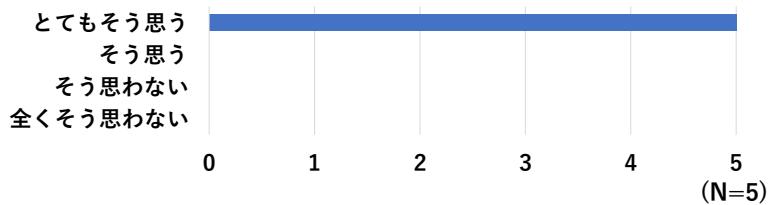


図 12 自分の見たいページにたどり着くことができましたか

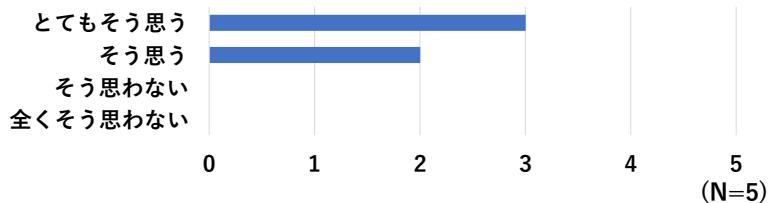


図 13 1人でさらさら学習教材を用いてさらさらのおどりを学習することができましたか

「そう思う」を選択した。高評価の理由として考えられる点は、画面左上部にパンくずリストの作成や、トップページに戻る際のリンクの表現を「トップページ」のような小学生にとって馴染みのない言葉は、「最初のページ」と表現し、本教材は「最初のページへ戻る」と表現した点である。そのため、小学生が迷わずにページを遷移できたと考える。

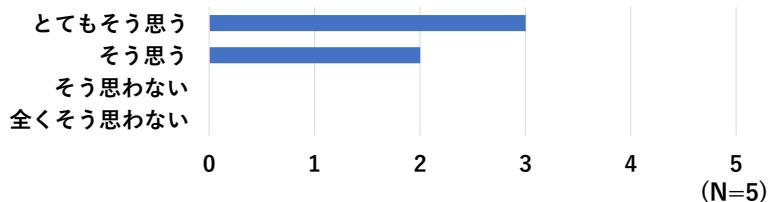


図 14 ボタンの大きさや文字の大きさは適切でしたか

図 14 より、3人が「とてもそう思う」2人が「そう思う」を選択した。高評価の理由として考えられる点は、2点ある。1点目は、上記でも説明した通り、使用するデバイスごとにボタンの大きさを変更した点である。2点目は、学習者に注目してほしいポイントの文字を大きくし、文字の大きさの差別化を図った点である。

上記の4つの結果から、本教材が代表児童にとって利便性があり、代表児童個人でさらさらの踊りを学習できることが考えられる。

### 5.2.2 工夫した点の評価についての設問

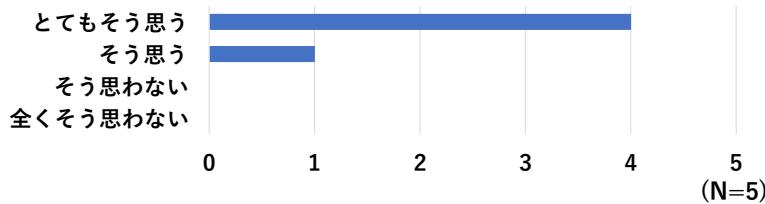


図 15 良い例と悪い例の動画や写真を見比べて、自分のまちがいに気づくことができましたか

図 15 より,4人が「とてもそう思う」1人が「そう思う」を選択した. 高評価の理由として考えられる点は、良い例と悪い例の動画や写真を用いて解説している画面で、下段に学習者に注目してほしい箇所を提示している点である。そのため、学習者は見るべきポイントを抑えることができ、踊りの間違っている箇所を集中して視聴できたのである。

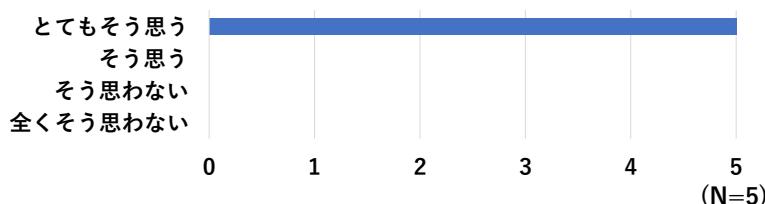


図 16 良い例と悪い例を用いて解説しているページで、十分なおどりの情報を得ることができましたか

図 16 より,5人が「とてもそう思う」を選択した. 高評価の理由として考えられる点は、良い例と悪い例の動画の中で、スロー再生を用いたり、注目してほしい動作の体の一部を丸で囲んで、踊りの動きを明確にした点である。

上記の 2 つの結果から、良い例と悪い例の動画や写真を用いて、動きのポイントを分かりやすくすることによって、十分な踊りの知識を提供できることが分かる。

### 5.2.3 実用的についての設問

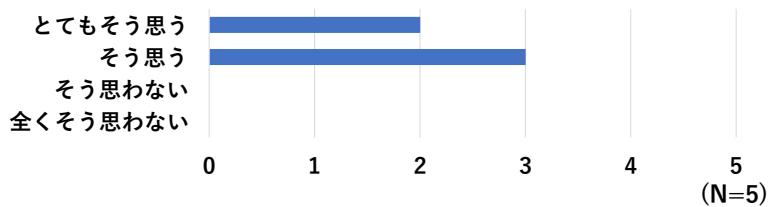


図 17 ささら保存会の、年に数回(運動会前や祭りの前)だけでささらを上手におどれると思いますか

図 17 より,2人が「とてもそう思う」3人が「そう思う」を選択した. この設問が高評価ということは, 代表児童にとって, ささら保存会の方々の年に数回の指導だけで満足しているということである. しかし, ささら保存会の方々は, 代表児童全体に対して十分な指導ができていないと考えている. そのため, 代表児童は, ささら保存会の十分ではない指導内容で, 満足しているため, 今後踊りの技術が発展しない可能性がある.

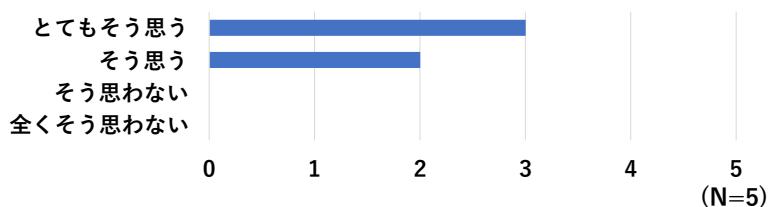


図 18 ささら保存会の教えと、ささら学習教材を組み合わせれば今までより上手におどれると思いますか

図 18 より,3人が「とてもそう思う」2人が「そう思う」を選択した. この設問が高評価なことから, 本教材の有用性を示すことができた.

## 6 結言

本研究は、地元の民俗芸能の指導問題に対して、ビデオ教材を開発した。結果から、小学生のさら代表児童に対して、本教材の有用性を示すことができた。今後は、本教材と、さら保存会の数回の指導を組み合わせて、さら舞のさらなる技術向上に期待したい。

地元の民俗芸能が、高齢化と後継者不足によって満足に指導することができない状況なので、全国の主要な伝統芸能も同じ問題を抱えている可能性がある。そこで、本教材のような、良い例と悪い例を用いて解説しているビデオ教材を作成することで解決への糸口になると考える。

## 参考文献

- [1] 小野和俊「学校百科・はじめてみる伝統芸能 1 歌舞伎」, クロスロード, 1989年3月25日第一刷
- [2] 小野和俊「学校百科・はじめてみる伝統芸能 2 能・狂言」, クロスロード, 1989年3月25日第一刷
- [3] 小野和俊「学校百科・はじめてみる伝統芸能 3 能・狂言」, クロスロード, 1989年3月25日第一刷
- [4] 小野和俊「学校百科・はじめてみる伝統芸能 4 古典落語」, クロスロード, 1989年3月25日第一刷
- [5] 読売新聞オンライン：“伝統芸能 次代の担い手を確保したい”, <https://www.yomiuri.co.jp/editorial/20220515-0YT1T50201/>, 2023/1/1 参照
- [6] 総務省行政評価局：“伝統工芸の地域資源としての活用に関する実態調査結果報告”, [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000818488.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000818488.pdf), 2023/1/1 参照
- [7] Iwanichi Online 岩手日日新聞社：“民俗芸能団体運営課題 「後継者不足」最多 北上市連合会 伝承の維持厳しく”, <https://www.iwanichi.co.jp/2018/11/05/250225/>, 2023/1/1 参照
- [8] 古河市 生涯学習課：“女沼のさら (市指定文化財)/古河市公式ホームページ”, <https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/syogaigakusyu/15/2403.html>, 2022/8/8 参照